

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

バグ医師スキルアップ講習会（ホブド県）

団 長：本間 琢英（国際部）
根来 信也（国際部）
横田 良介（宮城県柔道整復師会）
五反田重夫（兵庫県柔道整復師会）

指導者候補：エンフタイワン・トゥブシンバヤル
バトムンク・アルタンエルデネ
ムンフバートル・ボロルチメグ



写真1 会場風景

日 程

9月1日：講義第1日

午前：開講式

- (1) 挨拶およびオリエンテーション
ホブド県保健 ツービル所長
JICA モンゴル事務所 今吉 萌子

(2) 症例検討

講義－基本包帯法（アルタイ・トゥブシン・ボロルチメグ・根来）

午後：講義－基本固定実技（アルタイ・トゥブシン・ボロルチメグ・五反田）



写真2 開講式



写真3 基本包帯法



写真4 基本固定実技

9月2日：講義第2日

午前：講義－鎖骨骨折理論・実技（五反田）

午後：講義－肩関節脱臼理論・実技（ボロルチメグ・横田）



写真5 鎖骨骨折実技



写真6 肩関節脱臼理論・実技

9月3日：講義第3日

午前：講義－橈骨遠位端骨折理論・実技（トゥブシン）

午後：講義－肘関節脱臼（横田）

肋骨骨折（横田）

試験－筆記試験



写真7 橈骨遠位端骨折理論

9月4日：講義第4日

午前：試験－実技試験

午後：閉講式



写真8 実技試験



写真9 受講生一同

JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトとして、ホブド県のバグ医師を中心にスキルアップ講習会を実施した。

受講生はホブド県（24名）、ザブハン県（2名）、ゴビアルタイ県（5名）、オブス県（3名）、計34名の受講生に対して講義を実施した。

今後、モンゴル国における柔道整復術普及のためには、実際の症例・処置に対してバグ医師間ならびにカウンターパートと共有することが重要で、再受講生を中心に外傷治療経験のインタビュー形式にて実施した（別紙資料参照）。

その情報をもとに、閉講式後にディスカッションを行った。その際、ザブハン県のバグ医師2名の受講経験者が積極的に発言し、実際の症例経験および課題を把握することができた。

本プロジェクトも折り返し地点を過ぎ、今後、モンゴル国各アイマグでの症例検討会などを行える環境作りが重要である。

日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

バグ医師スキルアップ講習会（ホブド県）症例検討会

再受講者の症例報告

1. ザブハン県 バグ医師 氏名：ドゥグルマ

症例

- | | |
|------------|--|
| (1) コーレス骨折 | 処置：整復・固定（シーネ固定）
予後：経過良好にて治癒 |
| (2) 肋骨骨折 | 処置：モンゴル伝統の息を吐かせる
方法と包帯固定
予後：聞き取りなし |

感想

- ・この講習会は現場での治療に非常に役に立つ講習会だ。
- ・患者を家族のように取り扱うことを覚えた。
- ・外傷の患者が来ることを待ち望んでいる。
- ・この仕事は歳を取っても出来る仕事だから有難い。



2. ザブハン県 バグ医師 氏名：ツェヴェルマ

症例

- | | |
|-------------|--|
| (1) 肩関節前方脱臼 | 処置：整復（ヒポクラテス法にて）・
固定（聞き取りなし）
予後：経過良好にて治癒
モンゴル相撲にて受傷（反復性・2回目）
した症例であった。 |
|-------------|--|



- (2) 足関節捻挫 処置：包帯固定
 予後：経過良好にて治癒
- (3) 鎖骨骨折 処置：整復（聞き取りなし）・固定（リング固定）
 予後：経過良好にて治癒
- (4) コーレス骨折 処置：整復した・固定（厚紙＋シーネ固定）
 予後：2014年8月3日負傷で、現在は包帯固定のみで加療中である。

感想

- ・講習会で勉強したことが役立っている。

3. ゴビアルタイ県 バグ医師 氏名：トゥムンバートル

症例

- (1) 肩関節前方脱臼 処置：デゾー包帯固定して県立病院に送った。
 予後：不明
- (2) 股関節の症例 処置：鑑別する事が出来なかった。
- (3) 大腿骨頸部骨折 処置：県立病院に送った。



4. ゴビアルタイ県 バグ医師 氏名：ムンフウティトゥブ

症例

- (1) 肩関節前方脱臼 処置：家族に協力してもらい整復（ピポクラテス法）
 固定：デゾー包帯固定
 県立病院でレントゲン撮影の結果、骨折はなし。
- (2) 下腿骨骨折 処置：シーネ固定を行い、県立病院に送った。
 予後：経過良好にて治癒した。



5. ホブド県 バグ医師 氏名：ナルンチメグ

症例

- (1) コーレス骨折 処置：整復した・固定（シーネ固定）
 予後：2週間後に県立病院でレントゲン撮影の結果、経過良好
 同時に母指の骨折もあって、整復を試みたが、上手く出来なかった。
 難しいと思った。
- (2) 肩関節前方脱臼 処置：整復（コッヘル法）・固定（聞き取り忘れ）
 35歳、男性でモンゴル相撲にて受傷（反復性）の症例。



スキルアップ講習会受講生で、再受講生7名（オブス県1名、ザブハン県2名、ゴビアルタイ県3名、

ホブド県1名)のうち、5名が柔道整復術を用いて、治療を行っていた。

特に、ザブハン県の2名のバグ医師は、2007年7月にザブハン県で行われた講習会に参加して以来、ウランバートルで開催されたスキルアップ講習会にも積極的に参加し、柔道整復術の技術向上に努めている。この取り組みを他のバグ医師が共有することにより、柔道整復術を用いた外傷治療件数が増え、その結果、モンゴル国における柔道整復術の普及につながると考える(写真10)。



写真10 症例検討会風景

今後、このような症例検討報告会ならびにバグ医師による外傷処置件数・内容などのデータを共有できる仕組み作りが必要である。また、それに伴い、モンゴル人指導者候補が症例に応じた指導(講義)を適宜行っていくことが肝要である。